

## 第 11 回 東京都公金管理アドバイザー会議 議事要旨

日 時	令和 2 年 3 月 12 日 (木) ～ 3 月 17 日
場 所	持ち回り開催
出席者	委員) 今井委員、大槻委員、川本委員、幸村委員、根本委員 計 5 名 事務局) 鈴木公金管理課長、山村資金運用担当課長、赤岩課長代理、落合課長代理、有井主任 計 5 名
欠席者	なし
議 題	1. 令和 2 年度公金管理計画について 2. 公金運用に関する検討状況について (中間報告)
要 旨	<p>(1) 議題 1 「令和 2 年度公金管理計画について」</p> <p>事務局 景気の先行きについては、新型コロナウイルス感染症が内外経済に与える影響とそれに伴う金融資本市場の変動に留意する。迅速かつ的確なリスク対応を行いながら、安全性を最重要視し、流動性を十分に確保した上で、柔軟かつ効率的な保管・運用を行う。以上を基本スタンスとした「令和 2 年度公金管理計画」案について、金融機関や運用商品の現状とともに説明。</p> <p>委員 公金管理計画については、適正なものとして評価する。経済金融環境については、これまで以上に不透明感を増していくことが予想されることから、引き続き安全性最重要視で保管・運用していくべき。</p> <p>委員 今後予想される景気の減速が税収や金融機関経営にどのような影響を与えるかをこれまで以上に注視していくべき。</p> <p>事務局 先行きの不透明さについて十分に認識し、日常的な監視を強化しながら適時適切に対応していく。</p> <p>(2) 議題 2 「公金運用に関する検討状況について (中間報告)」</p> <p>事務局 現状の公金運用についての課題、課題を踏まえた新規の取組みの可能性、現状の金融機関の評価方法の再整理について、検討状況を説明。</p> <p>委員 預金先を新しく検討する必要性は十分に理解。検討に当たっては、各社の財務状況等をよく研究してほしい。債券の運用先についても個別の発行体の研究に時間をとるべき。</p> <p>委員 現在の評価方法は全体として妥当。日常的な監視と合わせて適時性を補っていくべき。</p> <p>委員 個別の金融機関の経営状況のみならず、預け先・運用先が集中することのリスクや逆に多様化することのリスクを今後整理していくべき。</p> <p>事務局 先行きが一段と不透明となる中、課題について、緊急・短期的なものや長期的なものに時間軸を分けたうえで、引き続き解決に向けた研究と検討を行っていく。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>